

令和2年度教育委員会点検評価報告書

(令和元年度分)

雲南市教育委員会

目 次

1. 令和元年度 教育委員会の活動状況	
(1) 雲南市が目指す教育	2
(2) 令和元年度の新たな事業	2
(3) 教育委員会の運営・活動	4
2. 点検評価に当たって	
(1) 点検評価の対象	5
(2) 点検評価の方法	5
3. 令和元年度 教育委員会点検評価	
目標 1 学校・家庭・地域・行政の協働を推進し、社会全体の教育力を 向上させる。	6
目標 2 学力の向上を目指すとともに、学校を支援する体制を整備する。	6
目標 3 保幼小中高の連携・接続による特色ある学校教育を推進する。	7
目標 4 学校教育・社会教育の連携・協働により、「土曜日の充実」をキャ リア教育の視点で取り組む。	7
目標 5 「子ども政策局」、教育NPO法人「カタリバ」との協働により、 子どもや家庭の支援の充実を図る。	7
目標 6 一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育を推進する。	8
目標 7 安全・安心な教育環境の実現と充実した教育活動を支える環境を 整備する。	8
目標 8 人権・同和教育、平和教育を推進する。	8
目標 9 文化財・文化振興行政の充実と賑わいのあるまちづくりを推進する。	9
目標10 生涯スポーツを推進する。	9
目標11 雲南市教育の推進体制の構築。	9

1. 令和元年度 教育委員会の活動状況

(1) 雲南市が目指す教育

平成26年度に策定した「第3次雲南市教育基本計画」では、雲南市が目指す「教育の基本目標」を継承し、次の3点を基本政策としています。

- ① 雲南市教育の推進体制の構築
- ② 「生きる力」を育てる学校教育の推進
- ③ 心豊かでたくましい人づくりをめざした社会教育の推進

この基本計画の最終年度に当たる令和元年度は、次の11項目の重点施策を掲げ、各種の具体的事業に取り組みました。

- ① 学校・家庭・地域・行政の協働を推進し、社会全体の教育力を向上させる。
- ② 学力の向上を目指すとともに、学校を支援する体制を整備する。
- ③ 保幼小中高の連携・接続による特色ある学校教育を推進する。
- ④ 学校教育・社会教育の連携・協働により、「土曜日の充実」をキャリア教育の視点で取り組む。
- ⑤ 「子ども政策局」、教育NPO法人「カタリバ」との協働により、子どもや家庭の支援の充実を図る。
- ⑥ 一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育を推進する。
- ⑦ 安全・安心な教育環境の実現と充実した教育活動を支える環境を整備する。
- ⑧ 人権・同和教育、平和教育を推進する。
- ⑨ 文化財・文化振興行政の充実と賑わいのあるまちづくりを推進する。
- ⑩ 生涯スポーツを推進する。
- ⑪ 雲南市教育の推進体制の構築。

(2) 令和元年度の新たな事業

① 第4次雲南市教育基本計画策定

平成27年度からの第3次雲南市教育基本計画が令和元年度末をもって終了することから、第3次の取り組みの成果と課題を整理し、引き続きキャリア教育を推進すべく、令和2年度から令和6年度を計画期間とする「第4次雲南市教育基本計画」を策定しました。

② 学校給食センター建設事業

老朽化した4か所の学校給食センターを統合し、中央学校給食センターとして令和元年9月より給食の提供を開始しました。

③ 第2期雲南市子ども・子育て支援事業計画策定

平成27年度からの第1期雲南市子ども・子育て支援事業計画が令和元年度末をもって終了することから、第1期計画の取り組みの成果と課題、子ども・子育て支援に関するニーズを踏まえ、令和2年度から令和6年度を計画期間とする「第2期雲南市子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。

④ 雲南市における小中一貫学園化構想に係る基本方針の策定

中学校区において、教科学習や生徒指導での一貫教育も含め、教職員が小中9年間を見通した教育課程等を編成し、計画的・系統的な指導を行うため、義務教育学校の設置をはじめ、小中一貫教育をさらに推進していくこととし、令和元年度に「雲南市立学校小中一貫学園化構想」を策定しました。

⑤ スクール・サポート・スタッフの配置

教員がより児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備するため、国の事業を活用して、学校での印刷業務やテストの採点補助など教員の業務支援を行う「スクール・サポート・スタッフ」を配置しました。

⑥ 特別支援学校通学支援助成事業

雲南市から市外の特別支援学校に通学しており、自力では通学が困難である幼稚部・小学部・中学部の幼児児童生徒の通学にかかる保護者負担の軽減を図るため、通学にかかる費用の支援を開始しました。

⑦ コミュニティ・スクールの導入促進

令和元年度には、新たに2中学校区（大東、木次）に学校運営協議会を設置し、市内7中学校区すべてにおいてコミュニティ・スクール化を行いました。

⑧ 家でも学校でもない第三の居場所B&Gうんなんの運営

様々な事情により放課後児童クラブやスポーツ少年団の活動等に参加しづらい児童を対象とした新たな居場所を加茂文化ホール「ラメール」に開設し、学習支援や生活支援、体験活動等を通して、学ぶ意欲や生活リズムを育みました。

⑨ 永井隆記念館建設事業

令和3年4月のリニューアルオープンに向け、令和元年9月に施設整備工事（建築主体、機械設備および電気設備）に着手し、また令和2年3月には展示工事に着手しました。

⑩ サッカーを通じた魅力ある教育環境の創出事業

令和元年5月に、サッカー場候補地調査を実施し、整備候補地の概略設計図面作成、概算事業費算出を行いました。また令和元年9月には市内の小中学生、保護者から雲南市のサッカー環境の充実に向けたアンケートを実施しました。

(3) 教育委員会の運営・活動

① 総合教育会議

2回開催し、次のことを協議しました。

- ・第1回 「第4次雲南市教育基本計画」策定に向け、第3次雲南市教育基本計画の成果と課題などの意見交換を行い、今後の教育のあり方について協議しました。
- ・第2回 第1回に引き続き「第4次雲南市教育基本計画」について、事務局より策定状況の説明を受け、計画に記載する項目などの意見交換をしました。また、義務教育学校制度について「雲南市における小中一貫学園化構想に係る基本方針(案)」の説明を事務局より受け、今後の義務教育学校の導入などの意見交換を行いました。

② 定例会、懇談会、臨時会

次ページ掲載資料のとおり実施しました。

③ 教育委員による学校訪問・各種行事への参加

・学校訪問等

校長が新たに赴任した学校を訪問しました。各学級を巡り、児童生徒の学習の様子、ICT機器の活用状況を視察し、その後、働き方改革を含めた学校経営について意見交換を行いました。また、市内小中学校で開催された研究大会に参加しました。

・各種行事への参加

成人式等各種式典、行事へ参加しました。

④ 視察研修

義務教育学校制度について、鳥取市立鹿野学園(校舎分離型)及び鳥取市立福部未来学園(校舎併設型)に伺い、義務教育学校設置の経過や運営状況、取り組みの成果など説明を受け、義務教育学校のあり方を学びました。

2. 点検評価に当たって

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、平成20年度から毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況について、点検及び評価を行い、その結果を報告書として議会に提出するとともに、市民の皆様へ公表することとされています。

(1) 点検評価の対象

今回の点検評価は、令和元年度の重点施策に基づき実施した各種事務事業を対象としました。

(2) 点検評価の方法

行政評価における「施策マネジメントシート」及び「事務事業マネジメントシート」をふま
え、教育委員会で、必要性、効率性、有効性、公平性等の様々な観点から分析し、成果や課題、
今後の改善点について点検評価することとしました。

資 料

教育委員会の活動					
(1) 会議・活動の開催状況					
項目	単位	令和元年度	平成30年度	増減	事業内容
定例会	回	12	12	0	毎月1回開催
臨時会	回	1	1	0	必要に応じ開催
懇談会	回	3	7	▲ 4	必要に応じ開催
傍聴者数	人	1	0	1	
総合教育会議	回	2	2	0	
視察研修	回	1	1	0	必要に応じ実施
(2) 審議の状況					
項目	単位	令和元年度	平成30年度	増減	事業内容
定例会審議案件	件	141	107	34	
報告事項	件	22	22	0	
承認事項	件	9	5	4	
審議事項	件	52	24	28	
指定事項	件	0	0	0	
教育長報告	件	58	56	2	
臨時会審議案件	件	3	1	2	
懇談会協議件数	件	8	8	0	
(3) 定例会・臨時会・懇談会以外の活動状況					
項目	単位	令和元年度	平成30年度	増減	事業内容
学校訪問	件	9	11	▲ 2	

3. 令和元年度 教育委員会点検評価

目標1 学校・家庭・地域・行政の協働を推進し、社会全体の教育力を向上させる。

- 教育フェスタについては、家庭教育、社会教育の連携による総合的な教育施策の成果発表の場としてだけでなく、社会全体の教育力向上という視点から、教育課題にどのように取り組むかを、教育関係者だけではなく保護者や地域住民の参加を増やし議論することが重要です。
- コミュニティ・スクール等導入促進事業では、全中学校区にコミュニティ・スクールが設置され、地域と学校の連携・協働体制が整備されました。各中学校区では、住民の理解と協力を得るための取り組みを展開されていますが、なお市民への浸透度は十分ではなく、今後も、引き続き市民への働きかけを行い、その理解を深め地域とともに子どもたちの教育の充実を図っていく必要があると考えます。
- 青少年海外視察等派遣事業は、参加後の追跡や参加者の活用を進め、今後の市のグローバル人材育成に大いに役立つと考えます。

目標2 学力の向上を目指すとともに、学校を支援する体制を整備する。

- 学校教育での学力向上の取り組みは充実しているが、家庭教育、社会教育と連携した学力向上の取り組みの充実も必要だと思います。長期休業中の宿題をプロジェクト学習（課題解決型学習）にするなど、生徒の創造性や個性的な意見などを引き出すような取り組みが望まれます。
- 校長協議会補助金については、校長の学校経営方針に基づき、学校独自の取り組みを促進するために事業を継続することが望ましいと考えます。また、この事業による好事例については市内の全校に紹介し、効果のある施策については積極的に導入することにより、大きな効果を期待したいと思います。
- 吉田中学校区での英語教育の取り組みの成果を市内各校に広げると共に、担任を中心とした小学校における英語学習の充実に取り組みがなされています。AETの配置は、小学校英語教育の成果向上のためにも継続が必要だと考えます。
- 学校図書活動充実事業は、自ら学ぶ意欲や探求心、豊かな感性の育成に大いに資する事業であると考えています。学校司書の配置校では、児童・生徒の学校図書館の活用が進んでいる実態をふまえ、市内全校への配置を図る必要があります。

目標3 保幼小中高の連携・接続による特色ある学校教育を推進する。

- 郷土・伝統・文化推進事業については、児童生徒に価値やすばらしさ、楽しさを伝え、将来の人材として育てていくためにも、事業の継続・充実が必要です
- 「夢発見プログラム」は、保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校・高等学校一貫した本市の特色あるキャリア教育推進プログラムです。これに基づき自立した社会性のある大人となるためのキャリア教育を一層進めていくべきであると考えます。
「夢」発見ウィーク事業をはじめとした各種事業については、成果発表の場や教職員の指導に活かす取り組みの充実等について検討していく必要があります。
- 教育魅力化事業については、人口の社会増や持続可能な地域づくりという課題の解決策としても重要です。これまで取り組んできた保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校でのキャリア教育に加えて、高等学校にコーディネーターを配置し、連携が進むことにより、特色ある雲南市の教育施策の一層の充実や教育の魅力化につながるものと考えます。

目標4 学校教育・社会教育の連携・協働により、「土曜日の充実」をキャリア教育の視点で取り組む。

- 土曜学習「中高校生の幸雲南塾」に年間を通して取り組み、雲南市の魅力発見、発信など生徒に多様な学習や活動の場を提供することができ、社会教育によるキャリア教育の推進が図られています。
- 土曜日・放課後を地域における「総合的な学習の時間」と位置付けています。児童生徒の柔軟な思考や行動力の育成は将来の地域づくりに大いに役立つものです。この視点からも、児童生徒の興味関心を喚起し、自発的な参加意欲が増すようなプログラムの充実や、コミュニティ・スクールの活動を活用し、様々な人の協力により、地域全体で子どもを育てるシステムの構築などの推進を図る必要があります。

目標5 「子ども政策局」、教育 NPO 法人「カタリバ」との協働により、子どもや家庭の支援の充実を図る。

- 子どもに対する支援は手厚く充実しているが、子どもの生活を支える家庭に対する支援にはさらなる充実が必要だと思えます。そのためにも子ども、学校、家庭を一体的に支援する仕組みづくりが必要です。

- 教育 NPO 法人「カタリバ」への業務委託により設置している「教育支援センター」は家庭や学校等と連携し、家庭訪問支援やアウトリーチ事業などにより、不登校児童生徒にきめ細かな対応をしているが、不登校児童生徒の割合が依然として高止まりの状況にあり、体制や取り組みのさらなる充実が必要です。
- 「子ども家庭支援センター」についても、関係機関との連携も進み相談件数も 580 余りとなっており、保健・福祉・教育の総合相談窓口としての認知度が高まっています。専門職員等の人員増を含め、迅速な対応や連携のできる組織及び体制の充実が必要だと考えます。

目標 6 一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育を推進する。

- 学校支援員配置事業については、特別な支援を必要とする児童生徒が増加する傾向にあり、支援員の配置に努力をしてくれているが、一人あたりの業務が多く、人員の増も含め支援の充実を図る必要があります。
- 保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校のみならず、家庭や地域も含む多面的で社会生活につながる特別支援教育の取り組みが必要です。

目標 7 安全・安心な教育環境の実現と充実した教育活動を支える環境を整備する。

- 市内の小中学校 22 校の全ての普通教室及び一部特別教室へのエアコン設置が完了しているが、今後も、子どもの安全・安心を図るべくトイレ環境も含め学校施設の計画的な整備が必要です。
- 図書充足率に対して理科備品充足率は低水準であり、計画的な整備が必要です。
- 中央学校給食センターが完成し、より安全・安心な給食の提供を進めています。また地産地消コーディネーターの配置により地元野菜の使用率が向上したことは評価できます。

目標 8 人権・同和教育、平和教育を推進する。

- 人権・同和教育、平和教育は学校教育、社会教育の基盤をなすもので、充実した取り組みが必要であるとの考えから、定例公開講座、人権同和問題地域講座など、地域での研修会を開催し、広く学び、考える機会が提供されています。

- 「永井隆平和賞」は雲南市における特色ある平和教育を推進する上で重要な取り組みです。今後も、世代を超えて平和を考える機会とするために、式典や学校での平和学習のあり方などの継続した取り組みの検討が必要だと考えます。
- 「永井隆記念館」の改築を一つの契機に、この記念館を平和教育の拠点として、市内の住民はもとより市外の人たちも訪れるような「平和教育なら、まず「雲南市の永井隆記念館」と言われるような広報・イベント企画等を検討していく必要があると考えます。

目標 9 文化財・文化振興行政の充実と賑わいのあるまちづくりを推進する。

- 文化財保護、文化振興事業は充実した取り組みがなされていますが、文化財の保存・管理事業では観光振興と連携し、SNSを活用した発信型の取り組みが必要だと考えます。
- 図書館は市民全体の文化振興や生涯学習の拠点となる施設であることから、更なる充実が必要だと考えます。

目標 10 生涯スポーツを推進する。

- 市民のスポーツ意識や施設利用の状況などの実態を把握し、これらを踏まえた交流活動の充実など事業内容の工夫や生涯スポーツの拠点であるスポーツ施設の整備を進めることによって、生涯スポーツの推進を一層図ることが必要だと考えます。
- スポーツ少年団の活動は子どもにとっても大変貴重な経験であり、地域からの支援も受けながら学校で学べないこともたくさん習得できることから、今後も引続き充実を図る必要があると考えます。
- 加茂B&G海洋センターを改修し、一層の生涯スポーツの場の提供を図ることができているが、さらなる施設の利用促進への継続した情報発信が必要であると考えます。

目標 11 雲南市教育の推進体制の構築。

- 令和2年度から5年間の雲南市の教育のあり方を示す「第4次雲南市教育基本計画」が策定されました。この計画の推進・実現に向け、活動を活発化させていくことはもとより、それぞれの活動への市民の理解・協力・参加を推進するためにも、広報・周知の徹底が必要であると考えます。

- 教職員の働き方改革については、I C T技術の活用により業務負担の軽減が着実に進んでいると感じるが、さらに改革を進めるうえでも各学校で意見交換し取り組む必要があります。